



2025

12/20 (土)

14:00-15:30

第1部 講演 / 第2部 上映会

会場 | 太子堂区民センター（裏面参照）

申込・問合せ | 下馬図書館（03-3418-6531）

先着

40名

参加

無料

（要予約）

講師 佐野 晃一郎

世田谷文学館学芸員。寺山修司をはじめとする現代作家の資料調査や展示を担当。展示や解説を通じて、文学の幅広い表現世界を紹介。企画展「帰ってきた寺山修司」（2012）、「寺山修司展―世田谷文学館コレクションにみる」（2024）などを担当。

生誕から下馬在住期まで

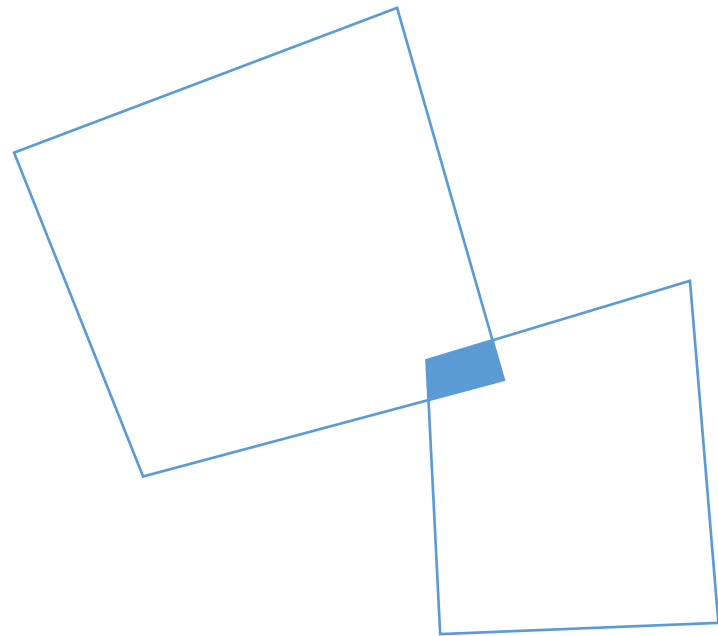
寺山修司の半生

世田谷文学館収蔵品で辿る

寺山修司生誕九〇年記念企画第三弾

講演会&上映会

▲「世田谷区下馬の自室にて」(昭和42年頃) ©テラヤマ・ワールド





▲ 世田谷文学館で開催された「寺山修司展—世田谷文学館コレクションにみる」(2024)会場風景



▲ 世田谷区下馬時代(昭和42年頃) ©テラヤマ・ワールド

転換点の世田谷下馬時代。

—演劇実験室「天井桟敷」誕生—

1960年代後半、30歳前後の寺山修司は世田谷区下馬に拠点を移し、演劇実験室「天井桟敷」を設立しました。この「世田谷時代」は、寺山にとって創作の方向性を大きく転換させる節目の時期となりました。

会場案内

世田谷区立 太子堂区民センター
世田谷区太子堂1-14-20



【電車】
・東急世田谷線 または 田園都市線
「三軒茶屋」駅 徒歩4-5分
【バス】
・三軒茶屋 徒歩5分



1995年4月に誕生した世田谷文学館(愛称《セタブン》)は、今年開館30周年を迎えました。「文学館って何をするところ？」と問われ続けて幾年月。「文学を体験する空間」をコンセプトに、そしてあらゆる表現ジャンルに文学は遍在するという信念のもと、絵本やマンガ、映像、デザイン、美術などの分野にもチャレンジしながら《セタブン》の個性を追求してきました。長年にわたり応援くださった区民、利用者みなさま、多大なご協力をいただいた関係者のみなさまへの感謝の気持ちを込めて、この秋「セタブン30祭」を開催いたします。

コレクションが語る、寺山修司の創作の核心。

—『職業は寺山修司』—

俳句や短歌、詩などの「文学」の枠を超え、ラジオドラマ、演劇、映画、写真など、さまざまな芸術分野でマルチに才能を発揮した寺山修司(1935~83)。自らの職業を問われると「職業は寺山修司」と答えました。

青森県弘前市に生まれた寺山修司は、中学時代からすでに「少年編集者」として新聞制作に取り組み、学芸雑誌や学級新聞を発行するなど、早くから旺盛な創作意欲を見せていました。高校卒業時には、全国の高校生に呼びかけて俳句研究誌を発行し、若き日より文学とメディアへの鋭い関心を示していました。

世田谷文学館では、寺山修司の自筆の書簡や、演劇実験室「天井桟敷」に関する貴重な資料—原稿、台本、ポスターなど—を多数所蔵しています。

本企画では、これらのコレクションを通して、ジャンルを超えて表現を追い求めた寺山修司の人物像を紹介します。



下馬図書館
11/14-
12/10

本を読む楽しさを届けに、
移動文学館がやって来る。



▲ 掲出バナーイメージ

世田谷文学館 出張展示「移動文学館」

目と耳で出あう寺山修司 詩と演劇

ME TO MIMI DE DEAU TERAYAMA SHUJI

寺山の幅広い活動から、詩と演劇の一部を抜粋して紹介します。関係者の音声インタビューや寺山修司の肉声にアクセスできる音声番組が新たに加わり、「目」と「耳」でお楽しみいただけます。

世田谷文学館 開館30周年記念コレクション展

世田谷線・100年間のものがたり

100年分の文学作品でめぐる、世田谷線のちいさな旅。

2025年10月18日(土)~2026年3月31日(火)



詳しくはこちら▲